

## 研修報告書 No.13

所 属：横浜市立大学附属市民総合医療センター  
氏 名：2年目研修医 木澤 莉香  
研修先：特定医療法人長生会 大井田病院  
医療法人聖真会 渭南病院  
宿毛市立 沖の島へき地診療所

上記研修病院にて12月の1か月間、地域医療研修をさせていただきました。高知県を訪れたことはなかったものの、両親が四国の他県出身で親近感があったことと、地域医療研修らしい研修ができそうだという期待のもと、数ある研修先から希望を出しました。私はこれまで700床前後の都市部の急性期病院で初期研修を行ってきたため、入院治療や外来通院と普段の生活とのつなぎ、病院に来ていない間の介入の様子など、病院の一步外を出た時に行われていることについては想像の域を出ませんでした。そこで、退院後の患者さんの生活を意識する上で、医療と介護や福祉の連携の実際を知ることが地域医療研修の一つの目標とし、将来自分の診療する医療圏へどう生かしていくかを考えるきっかけとすることにしました。もちろん、高知のカツオやサバを楽しみにしていたことは言うまでもありません。

私は最初に大井田病院で1週間、次に渭南病院で3週間ほど研修しました。大井田病院での研修の特徴は、院外にすることが多い点です。訪問診療・訪問看護、特別養護老人ホーム、地域包括支援センターや保健所など様々な所へ行き、患者さんや地域住民を取り巻く医療・福祉の状況を、医師とは別の立場から多面的にみる貴重な機会となりました。また、1泊2日の沖の島へき地診療所研修では、限られた医療資源（薬剤の種類制限、土日は医師不在で平日は交代制など）の中でどのように診療が行われているかを体感しました。次の渭南病院では、外来診察を中心に、高知市内への転院搬送や、特別養護老人ホーム等への往診を行い、手技としては上部消化管内視鏡検査やCVC挿入、関節腔内注射や創傷処置等を経験しました。初期研修では一般外来診察を行う機会は少ないため、先生の隣の診察室で自由に診察しながらもすぐに相談できる絶好の環境で経験を積むことができたことは、とても幸運でした。診療科にとらわれない幅広い診療を行う端緒となりました。

今回の地域医療研修において印象的だった研修が2つあります。まず地域包括支援センターでの研修です。医療は介入していないけれども福祉支援の必要な各家庭を実際に訪問することで、困窮した生活環境や経済状態への介入も実際に垣間見ました。第一次産業での負債は多額になることもあり、そういった背景の中で身寄りのない人などを地域の中で支えていくことも必要です。そういった方々が病気となった時、地域包括支援センターの職員の方と医療者は入退院の調整や生活環境の整備に関わりますが、その際に膨大で緊密

な仕事をこなされているという事実を今回知りました。感謝しながら、できる限りの協力体制を作っていきたいと感じる研修でした。当初の目標を達成する一助にもなったと思います。

二つ目は、渭南病院から高知市内まで 2 時間半かけて転院搬送し、市内の複数の中核病院を回って、救急外来やドクターヘリ出動の様子を見学させていただいたことです。県内の医療体制を横断的にみることができたことは、まさに地域医療研修の醍醐味といえます。山間部などでは地域の各病院である程度急性期から慢性期に対応しながらも、時に重症患者を三次救急病院まで搬送しなければなりません。交通の便を考えると、都市部の中核病院ではドクターヘリや FMRC (Fast Medical Response Car) などを活用しながら周辺地域からの搬送を行う必要があり、その連携を見ることができたことは、高知県にとどまらず日本各地での医療システムを考えるきっかけになりました。

今回様々な方のご協力があり、地域医療を存分に味わう有意義な 1 ヶ月となりました。私自身は将来がん診療に携わっていきたいと考えていますが、最先端の治療だけでなく地域医療とは切っても切り離せない関係にあり、今回の研修を存分に生かしていけたらと思います。お忙しい中、本当にありがとうございました。